

## <環境省ニュース>

# 平成17年度環境保全研究発表会について

## 環境省総合環境政策局総務課環境研究技術室

### 1. はじめに

環境省は、公害防止等試験研究費及び環境技術開発等推進費による環境研究・技術開発のうち、平成16年度に終了した研究開発課題の研究成果を広く国民、民間企業、大学、行政機関等に公表するとともに、各課題の事後評価を行うため、平成17年度環境保全研究発表会を開催した。本稿では、その概要について紹介する。

### 2. 発表会の開催概要

本発表会は、毎年、公害防止等試験研究費による試験研究及び環境技術開発等推進費による環境研究・技術開発のうち、前年度に終了した研究開発課題を対象として開催している。

公害防止等試験研究費は、関係府省の試験研究機関等が実施する公害の防止や自然環境の保全に関する試験研究費を環境省が一括して予算計上し、その配分を通じて国の環境保全に関する試験研究の総合調整を図るものである。また、環境技術開発等推進費は、環境省が所管する競争的研究資金のひとつであり、公募方式により広く産学官の英知を活用した環境研究・技術開発の課題の提案を募り、優れた提案に対して研究費を支援することにより、環境研究・技術開発の普及促進を図るものである。

平成17年度の発表会は、平成17年10月25日(火)、26日(水)に、東京厚生年金会館において開催した。1日目は、宇仁菅環境研究技術室長の開会あいさつの後3会場に分かれ、公害防止等試験研究費による23課題、環境技術開発等推進費による4課題の研究発表が行われた。また、2日目は、2会場

において、公害防止等試験研究費による10課題、環境技術開発等推進費による4課題の研究発表が行われた。(表1, 写真1)

各会場では、国立試験研究機関・独立行政法人試験研究機関等約110名、民間企業約50名、地方環境研究所・地方自治体環境部局約30名、大学約10名の計約200名の参加者と、環境省が設置する外部評価委員会である「総合研究開発推進会議」の委員21名により、熱心に質疑が行われた。

なお、各課題の研究成果の概要は、「環境保全研究成果ダイジェスト集」としてとりまとめ、会場で参加者に配付したほか、全国環境研協議会会員機関にも送付したので、御参照いただきたい。

### 3. 事後評価の概要

事後評価は、研究開発が終了した段階において、研究開発の達成度の把握、進捗上の問題点の把握・分析、研究開発目標及び研究開発計画の妥当性のレビュー、研究開発成果の把握等を行うため実施するものであり、毎年、環境保全研究発表会において「総合研究開発推進会議」の委員により行うこととしている。

事後評価は、

- ・研究の進め方は適切であったか。
- ・当初想定していた成果は得られているか。
- ・今後、研究開発の発展は期待できるか。
- ・その他評価すべき点(研究発表の状況、工業所有権の取得状況等)

の観点についての評価と、これらの評価を踏まえた総合評価として、A(非常に優れている)、B(優れている)、C(どちらともいえない)、D(優れて

表 1 平成 17 年度環境保全研究発表会日程

月日	会場	時間	分野	研究代表機関	研究課題名 無印：公害防止等試験研究費 ○印：環境技術開発等推進費	
1 日 目 10 月 25 日 (火)	第1会場	10:00～ 10:15			開会式	
		10:15～ 12:15	大気 大気	埼玉大理工学研究所 ◎産業技術総合研究所	○静電式分級濃縮技術を応用した大気中超微小粒子の組成分析手法の開発 有害大気汚染物質・揮発性有機化合物の高効率・簡易型処理システムに関する研究	
			大気 大気	◎産業技術総合研究所 ◎交通安全環境研究所	軽油の酸化的超深度脱硫 自動車から排出される未規制有害物質の実態解明と排出抑制技術に関する研究	
		5 F 宴	13:15～ 16:00	大気	◎海上技術安全研究所 ◎産業技術総合研究所	船舶から発生する有害揮発性ガスによる複合汚染の低減に関する研究
				大気 大気	◎国立環境研究所 ◎産業医学総合研究所 ◎産業技術総合研究所 ◎国立環境研究所	生物評価試験による浮遊粒子状物質の長期曝露モニタリングに関する研究 ディーゼル車排出ガスを主因とした局地汚染の改善に関する研究
	循環型 循環型		◎産業技術総合研究所 ◎産業技術総合研究所	生分解性プラスチックの適正使用のための分解菌データベース作成に関する研究 有害物質の漏洩防止材料の開発に関する研究		
	第2会場	10:15～ 12:15	自然	◎農業生物資源研究所	生物農薬の放飼が在来昆虫個体群の遺伝的多様性に及ぼす影響の解析	
			自然 自然	◎森林総合研究所 ◎森林総合研究所 ◎林木育種センター	絶滅が危惧される希少樹種の生息域内保全に関する基礎的研究 帰化生物の影響排除による小笠原森林生態系の復元研究	
		13:15～ 16:00	水	◎産業技術総合研究所	○ナノ反応場を活用した酵素活用生分解水環境改善システム技術の開発	
			水	◎水産総合研究センター ◎水産大学校	船底塗料用防汚物質の水産生物に対する有害性の解明及び環境保全目標に関する研究	
			水 水	◎水産総合研究センター ◎産業技術総合研究所 ◎海上技術安全研究所	ヘテロコプサによる二枚貝への死防止と海洋環境保全技術の開発に関する研究 有機塩素化合物等有害化学物質の排出抑制のための電気化学的高度分解処理技術の開発に関する研究 瀬戸内海の高砂利資源採取による広域的環境影響評価と管理に関する研究 有害液体物質流出時の環境汚染モニタリングに関する研究	
	第3会場	10:15～ 12:15	リスク リスク リスク リスク	◎産業技術総合研究所 ◎浜松ホトニクス株式会社 ◎国立医薬品食品衛生研究所 ◎国立医薬品食品衛生研究所	○バーコード認識酵母を用いた長期環境汚染モニタリング装置の開発 ○生物微弱光発光計測の応用による藻類増殖阻害試験の高度化に関する研究 化学物質の環境リスク対策の基盤整備としてのトキシコゲノミクス研究 水域環境における内分泌かく乱化学物質の次世代への影響評価法確立に関する分子遺伝学的研究	
			13:15～ 16:00	リスク リスク	◎国立医薬品食品衛生研究所 ◎産業医学総合研究所	感染症に及ぼす内分泌かく乱物質の影響に関する研究 内分泌かく乱作用が疑われる化学物質の生殖系・次世代への影響評価に関する研究
		リスク リスク		◎農業・生物系特定産業技術研究機構 ◎産業技術総合研究所 ◎国立環境研究所	牛糞分解性動物をモニタリング指標とした牛用駆虫薬が草地生態系に及ぼす影響の解明 ハロゲン化ダイオキシン類似物質のQSAR分析法と分解処理技術の開発 廃棄物の熱処理における臭素化ダイオキシン類の長期的管理方策に関する研究	
		第1会場	11:15～ 12:15	都市 都市	◎農業工学研究所 ◎産業技術総合研究所	取水堰における落下水騒音の音響工学的評価と対策技術の開発に関する研究 GISによる騒音源周辺環境を考慮した騒音伝搬予測に関する研究
13:15～ 15:15	都市			◎産業技術総合研究所	都市気候・エネルギー連成モデルによるヒートアイランド対策の総合評価に関する研究	
	リスク リスク		◎産業技術総合研究所 ◎国立がんセンター研究所 ◎国立環境研究所 ◎産業技術総合研究所	工業製品の生体影響評価のための組織特異的内分泌攪乱化学物質検出系の開発 ダイオキシン類による地域環境汚染の実態とその原因解明に関する研究		
	リスク		◎放射線医学総合研究所	環境有害物質が人の健康に及ぼす影響を評価するためのセルチップの開発に関する研究		
第2会場	10:15～ 12:15		土壌 土壌 土壌	◎東京大学環境安全研究センター ◎農業・生物系特定産業技術研究機構 ◎農業環境技術研究所 ◎農業・生物系特定産業技術研究機構	○土壌等由来微生物によるヒ素汚染土壌の浄化に関する研究 ○土壌環境健全性評価のためのオンチップマイクロコズムの開発 農耕地における微量重金属負荷量の評価に関する研究	
		水	◎環境省水・大気環境局	瀬戸内海水域の地域特性を踏まえた有機汚濁機構の解明に関する研究		
	5 F 雅	13:15～ 15:15	自然 自然 自然 自然	◎国立環境研究所 ◎助次城県科学技術振興財団 ◎北海道開発土木研究所 ◎環境省自然環境局	○水辺移行帯修復・再生技術の開発 ○豊かな生き物を育む湖沼の再生・汚濁湖沼の底質改善技術開発による健全生態系の構築— 寒冷地における藻場形成過程の解明に関する研究 湿原生態系の攪乱要因としての野生動物の管理に関する研究	



写真1 開会式(第1会場)

いるとはいえないが、実施した意義はある)、E (優れているとはいえず、実施した意義も乏しい) の5段階の評価をそれぞれ行うとともに、必要に応じてコメントを記載する方法で行われた。

総合評価の結果は、各評価者のA～Eの評価を点数化し、その平均点のランクに応じてA～Eの5段階評価として算出した。

総合評価の算出結果は、公害防止等試験研究費の33課題については、B評価が25課題、C評価が7課題、D評価が1課題であった。また、環境技術開発等推進費の8課題については、B評価が4課題、C評価が2課題、D評価が2課題であった。

これらの評価結果及び評価者のコメントは、今後の研究開発の参考となるよう各課題の研究者に示すとともに、コメントに対する研究者からの回

答を求めている。これらの概要については、環境省のホームページ(<http://www.env.go.jp/policy/tech/kogai.html> 及び <http://www.env.go.jp/policy/tech/suishin.html>)に掲載するので、御参照いただきたい。

#### 4. おわりに

環境保全に関する試験研究の成果を広く公表する本発表会は、国民に対する説明責任を果たすうえで、極めて重要な役割を担っていると考えており、今後とも、より充実した発表会となるよう努めていく所存である。

地方環境研究所の皆様にも、引き続き、積極的な御参加をお願いしたい。